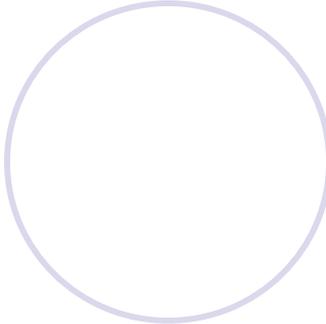
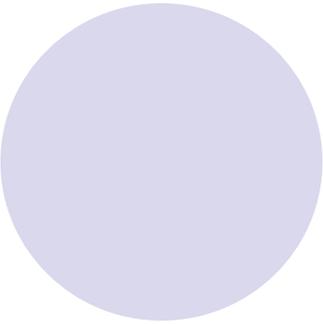
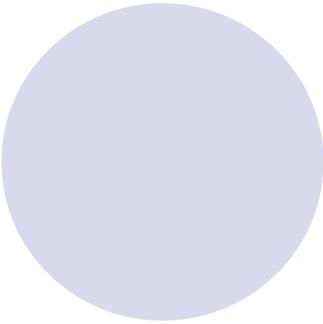
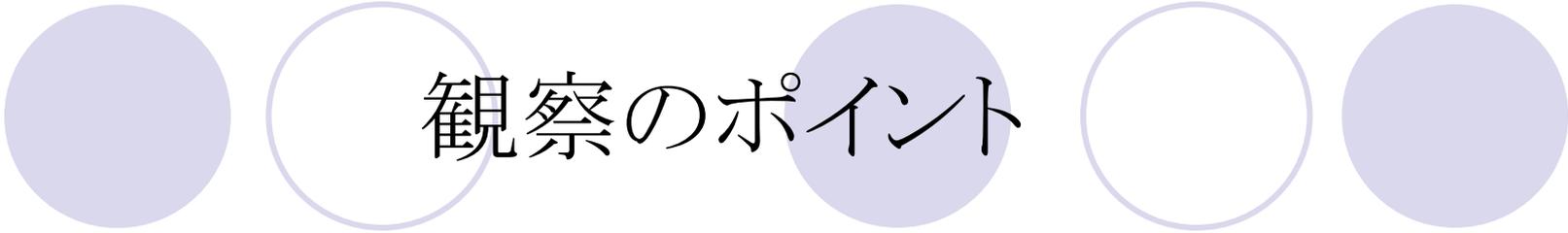


けいれん





観察のポイント

- けいれんは突然全身を震えさせるもので、子どもに多い症状の一つです。

この中でも発熱に伴って起こる、熱性けいれんが最も多くみられます。

関係する神経の働きの異常により、体全体や体の一部がつつぱったり、ピクピクしたり、脱水したりすることがあります。

5分以内におさまるものがほとんどですので、慌てずに様子を見ましょう。

しばらく様子を見てもよい場合

- けいれんが1回だけで、しかも5分以内に止まり、いったん目をあけて周囲の呼びかけに反応したり、泣いたりした時、顔色もよく、呼吸も普通の場合。

早めに救急外来を受診した方がよい場合

- 初めてけいれんを起こした。
- けいれんが5分以上続いた。
- けいれんの後、1時間以上たっても反応がない。(=意識が戻らない)
- けいれんの後に繰り返して吐く。
- けいれんの後で意識が戻らないうちに、またけいれんが起こった。
- 半日に2回以上けいれんが起こった。
- けいれんに左右差が認められる場合、四肢に麻痺が残っている場合。
- 意識不明の言動を伴っている。(異常に興奮している、異常に不機嫌)
- 発熱2日目(36時間)以降にけいれんが起こった。

けいれんについて

- 「熱性けいれん」は1歳～5歳までに多くみられる良性疾患です。遺伝性があり、子ども7人～10人に1人の頻度で起こると言われています。実際には、発熱して24時間以内に発症してくることがほとんどです。1歳未満の乳児でも、発熱から36時間以内に、多くは左右対称に起こり、5分以内に自然消滅します。

慌てずに、目や手足がどのようなになっていたか、何分間続いたのかを観察しておきましょう。

- 「有熱性けいれん」とは、熱性けいれんを含む発熱時けいれんの総称です。髄膜炎や脳炎などの症状として現れることもあり、その鑑別は難しいので、前述の項目がある時には必ず受診しましょう。

けいれん・震え

次のうちどの症状がみられますか？

- けいれんが止まっても、意識が戻らない。
- 唇が青紫色になり呼吸が弱い。

この欄に1つ以上「はい」がある

救急車を
呼びましょう！

- けいれんが5分以上続く。
- 生まれて初めてのけいれんである。
- 生後6ヶ月未満(あるいは6歳以上)
- けいれん時の体温が38.0℃以下だった。
- けいれんに左右差がある。
- 嘔吐、失禁を伴う。
- 最近、頭を激しくぶつけた。
- 何度も繰り返しけいれんが起こる。

左欄に「はい」はなく、この欄に「はい」がある

小児科医のいる医療機関を受診してください。

ただし、症状が大きく変わったら小児科医のいる医療機関および休日
夜間急患センター等を受診してください。

- すでに診断がついており、今までにも何度が起こったことがあるけいれん発作。(てんかん)
- けいれんかどうか分からない。

この欄にしか「はい」がない

様子をみながら診療時間になるのを待って医療機関へ